



# 与野西北小だより

2月号

令和8年1月30日

- 【学校教育目標】 ◇みんなと協力する子（德育） ◇自分の力で考える子（知育）  
◇心身ともに健康な子（体育） ◇人との関わりを大切にする子（醸育）

【学校経営方針】 みんなでつくる みんなの与野西北小学校

【児童会スローガン】 せ・い・ほ・く だ・い・す・き

[西北小学校50周年キャラクター]  
西北五十丸



与野西北小学校

TEL853-0109 ホームページアドレス <http://yonoseihoku-e.saitama-city.ed.jp/>



## 5本の指が教えてくれたこと

校長 緒方 健二

2月3日は節分です。鬼を追い出して、福の神を呼び込みましょう。そのためには、福の神が大好きな（鬼が居心地悪いと感じる）清々しく温かい雰囲気を作ることが大切です。学校や家にも福の神が喜んで来てくれるような場所にしていきましょう。

私事ですが、先日、親指を怪我しました。「よりによって右親指を怪我してしまった」と落ち込みましたが、少し前に薬指を怪我した時も、いろいろと不便を感じたことを思い出しました。どの指も大切だとしみじみと指を見ていたら、「指の知恵（5本の指の争い）」というお話を思い出しましたので、あらすじを簡単に紹介します。

ある時、5本の指たちが「誰が一番偉いか」を競い合い始めました。

■親指：私が一番太くて強い。何をするにも私が必要だから、私が一番だ。

■人差し指：方向や大切なものを指し示すのは私だ。私がリーダーだ。



■中指：私が一番背が高い。全体を見下ろしている私が一番立派に決まっている。

■薬指：宝石を飾る指輪をはめるのは私だ。私は一番美しく、気品がある。



■小指：私は一番小さいけれど、約束を交わす時や耳を掃除する時など、私にしかできない細かな役割がある。

それぞれが自慢ばかりで譲りません。そこで、目の前にある「1本のペン」を拾おうとしましたが、どの指も1本では持ち上げることができませんでした。しかし、5本の指が力を合わせると、軽々とペンを掴み、文字を書くことができました。ここで指たちは気づきます。「形や大きさは違っても、どれか一つが欠けても力はない。みんな違って、みんなで一つなんだ」と。

それぞれ指の長さや形が違うのは、「その指にしかできない仕事」があるからです。親指のようなリーダーシップも、小指のような繊細な気配りも、どちらも欠かせない存在です。

これは、学校でも、そして社会でも同じです。計算が得意な人、足が速い人、困っている友達にすぐ気づける人、みんなを笑わせるのが上手な人。一人ひとりの得意なことや個性は違います。誰一人として同じ人はいません。

子どもたちには「自分の個性を大切にし、そして隣にいる友達の良さも見つけて大切にできる。」そんな人になってもらいたいと願っています。